

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病・治療論V (運動器、リハビリテーション)	対象学生	第1学年
担当講師		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第2学期
科目目標	医師、理学療法士				

- 骨・関節・筋肉の病的状態における構造変化、機能異常および診断、治療を理解する。
- 生活上の障害を最小限にするためのリハビリテーションの概念・方法を理解する。

授業概要

- 第1～7回 **骨・関節系疾患の病態、治療方法、経過**:15H 担当:医師 (講義)
骨折の病態生理と治療・検査
骨粗鬆症
骨、関節の炎症性疾患、先天性疾患の病態生理と治療・検査
骨の腫瘍
脊椎の疾患の病態生理と治療・検査
靭帯、腱、末梢神経損傷の病態生理と治療・検査
- 第8～14回 **リハビリテーション概論**:15H 担当:理学療法士 (講義)
運動器系の障害とリハビリテーション
中枢神経系の障害とリハビリテーション
呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション
関節可動域(ROM)ならびに測定方法
- 第15回 **まとめ・終了試験**

看護師国家試験出題基準

骨折、脱臼、捻挫 骨粗鬆症 腫瘍(骨肉腫) 変形性関節症 腰痛症(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症)
炎症性疾患(骨・骨髄炎、関節炎) 筋ジストロフィー 重症筋無力症
リハビリテーションの定義 リハビリテーションにおける看護の役割 機能障害と分類 生活機能障害とADL
居住環境 廃用症候群の予防 ADL・活動範囲の拡大に向けた援助 補助具・自助具の活用
心理的葛藤への援助 多職種連携 身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用
就労支援・環境の調整 社会参加を促す要因と阻害要因

授業の進め方

形態と機能での学習内容をふまえ、講義形式で進める。

履修のポイント・留意事項

人体の正常な形態と機能を基礎として、病的状態におこる構造と機能異常の関係や発生機序、診断方法、治療方法と予後について学習する。

テキスト

系統看護学講座 成人看護学 運動器疾患 医学書院
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

評価方法・配点

授業への取り組み状況、終了試験にて総合的に評価する。